

暑い夏が終わって、秋になりました。

Hot summer is over and autumn has come. [英語]

ANG TAG-INIT AT TAPOS NA AT DUMATING NA ANG TAGLAGAS [タガログ語]

नेपालमा चार्मि समय चैत्र देखि आइ सञ्च। [ネパール語]

ネパーロマ ゴルミ ソモエ サイトラ デキ アドラ サンマ

PHD運動とは

PHD運動とは昭和37年(1962)より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上で医療活動に従事された岩村昇博士の提唱による国際ボランティア運動です。

PHD LETTER

No. 8 発行 1983年9月10日

編集発行 財団法人 PHD協会
〒650 神戸市中央区元町通5-2-3
甲南サンシティ元町ビル
電話 神戸 078-351-4892

リサイクルして献がよう、グアム・サイパンの草の根の人達と共に
「生活の病氣」からいやする為

岩村 昇

南太平洋の島々は、グアムもサイパンも、訪ねてみると、みんな同じであつた。

戦場の跡に、コレラが出はじめて居る丈ではなから。その背景に、
「物を粗末にするという「生活の病氣」が、草の根を蝕むで居る。

「目の前で、余りにも沢山の物があつたのと同じに壊れ、壊され、捨てられた。戦争は物を大切にするといいわがらの生活の根のこと、えぐり奪い去って行つた。わがらはその傷から未だに平されて居ない。」

秋と貴方様のライフスタイルの10パーセントを献がけて、例えは「ホイ捨て空さ食を棄めて、その売り上げで南太平洋が青年を、私と貴方様の生活の現場にまねまじよう!!」



1983年5月 マニラ空港でマザーテレサと Dr. Iwamura with Mother Teresa at Manila International Airport in May, 1983.

会員ご加入のご報告とお願い

本年6月にはじまりましたPHD会員制につきまして、早速、この趣旨にご賛同いただき、会員になってくださいました皆様にお礼を申し上げます。

Table with 5 columns: 昭和58年6月, 7月, 8月, 計. Rows include 終身維持会員, PHD会員, 友の会員.

PHD協会事務局では、1人でも多くの方のご加入を個人や団体を通じてお願いしております。今後とも一層のご協力をお願いいたします。

入会: PHD運動に賛同し、入会申込書と会費をPHD協会あてに提出されると、信仰、思想、信条に関係なくどなたでも会員になっていただけます。

会員: (1) PHDについての講演会、セミナー、研修会等に出席して意見を述べ、活動に参加願います。(2) PHD協会機関誌「PHD」(年1回発行)及び「PHD-LETTER」(年4回発行)などの刊行物をお読みいただけます。

会費: (1) PHD終身維持会員 一口 100,000円 (2) PHD会員 年額一口 5,000円 (3) PHD友の会会員 任意の額

(通信費としての年額500円以上)

研修生状況報告(第1期生)



たば農文塾で日本人参加者と一緒にPHD trainees with Japanese participants at Nobun-Juku.

今回は6月からの第1期研修生の様子をご報告します。まず修学旅行の意味あいで東京に出かけた。

熱海から箱根、芦ノ湖を巡って小田原経由新宿と第1日、楽しみにしていた富士山は雲であいにくく見えないのが残念でした。翌日と翌々日は都内見学、国会議事堂、皇居、渋谷、NHK、原宿、新宿西口、秋葉原、アメ横、浅草とまわり、その間に東京方面の協力者の岡田さん、岡本さん、東方さん、蛭田さんなどにお出でいただきました。

「ネパールの貧しい地域社会の向上のために農業生産及びその販売方法の改善について、ソーシャル・ワーカー、ボランティア、役場の人と一緒に話し合いをもち、日本で学んだことにもとづいて、貧しい人々の生活レベルを引き上げるため、また人々の諸要求に応えるように指導したい。

集団研修後、日本での研修の成果を生かすのに必要な機材類を手に入れ7月14日、ロサーナさん、パニサレスさんがタイ航空621

便でマニラへ、翌15日にアマティアさん、ビスタさんがインド航空307便、バンコク経由カトマンズへと大阪空港から帰国の途につきました。

Table listing equipment brought by trainees: Amatia (stethoscope, blood pressure gauge, etc.) and Vista (stethoscope, blood pressure gauge, etc.).

左表以外にもPHD協会から支払われる多いとはいえない毎月の生活費をためて買ったラジカセ、タ

をお土産にしました。帰国後、ネパールの二人からは無事ついたとの連絡が入りましたが、フィリピンからは連絡がありません。

1年を通じての浄財寄付、絵ハガキ・本等の購入、研修先・滞在家庭に関する情報提供、研修計画・指導法へのアドバイス、研修指導、宿泊地、食事提供、研修材料・衣料提供、各地での案内・付添、移動手段の提供、出迎え・見送り、事務局お手伝いなど様々な個々のPHDが協会事務局をつなぎ役として結びつき、研修生受入れができたのだと思います。

ホストファミリーのご感想



原 久一さん アマティアさんホストファミリー 57.9~58.6 兵庫県多紀郡丹南町で農業を営む

年月のたつのも早いものでネパール研修生も無事に伊丹空港を出発しました。忙しい中でしたが、家族全員でお見送りしました。

うで、子供の多いネパールのようにくつろげたのではと嬉しく思いました。簡単なことではないと思いますが、国際交流の本当の目的を見極めることが大切ではないでしょうか。



溝口和秀さん ロサーナさんホストファミリー 57.9~58.6 兵庫県多紀郡篠山町で農業を営む

フィリピンのリト君を受け入れた。耕種を中心とする農業研修に取り組みたいという。私は現在、畜産農家であり、彼の研修目的からすれば、互いに「別世界」である。



渡辺省悟さん ビスタさんホストファミリー 58.2~58.6  
兵庫県多紀郡丹南町で農業を営む

NHKの「おしん」が人気を呼んでいる。その「おしん」をバト・ビスタ君と一緒に見るのを日課としてきた。テレビ嫌いの彼も「おしん」にだけは強い興味を示した。日本へ研修に来てその繁栄ぶりに目を見はった彼も、おしんの少女時代である7・80年昔は今のネパールの現状と大差のなかった事を知り、これからの国づくりに新たな勇気を抱いたからに違いない。ともに見ていた私や多くのファンも、おそらく一今日のような豊かな日本が続くはずがない。貧しくとも心豊かであったその時代まで辿ることによって、失われた何かをとりもどしたい、—そんな思いをこめていたと思う。そ

れと同じ思いを、ビスタ君との生活を通じて幾度となく経験させられた。例えば、ネパール料理を教えてもらうが、化学調味料や化学色素は使わず、10数種に及ぶ木の実、葉、根の混ざった「マサラ」をすり鉢ですりつぶして使う。三度の食事でも加工食品には絶対箸をつけず原形の残っている野菜、豆、肉なら安心して食べる。又、森づくりのお手伝いの礼としてもらった餞別も「この金はネパールの山のために使う」と自然に言う。日本のボランティアのようにぶったところがない。

心労よりも、心洗われる日の多かった彼との生活の中で、今なぜネパールなのかを知らされた。それは、今なぜおしんのかとも同じである。



## 第2期研修生(1班)来日!

7月26日夜、タイ航空610便で第2期PHD研修生(1班)3名、サヒさん、ラダさん、サンバさんが無事大阪空港に到着しました。女性研修生はサリー姿に大きな荷物を抱えてやってきました。早速、神戸市内の宿舎に旅装を解き、8月1日から神戸YMCAで日本語の研修に入りました。サヒさん、ラダさんは6~8月、サンバさんは1年の滞在予定です。研修交流のご希望その他何でも結構です。協会事務局までお問い合わせ下さい。

- 3人をご紹介します
- ① 名前
  - ② 呼び方
  - ③ 国籍
  - ④ 年齢(生年月日)
  - ⑤ 職業
  - ⑥ 趣味
  - ⑦ 研修内容
  - ⑧ 研修の抱負
  - ⑨ 日本での感想

担当 増岡裕介

### ① Ms. SRIJANA SAHI

スリジャナ サヒー

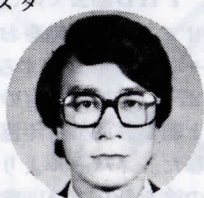
- ② サヒーさん
- ③ ネパール
- ④ 34才(1949年1月1日生)
- ⑤ マザーズ・クラブ支部長
- ⑥ 料理・編物
- ⑦ 手工芸・婦人の社会活動
- ⑧ この様な立派な国で学ぶ機会を与えられ、幸せだと思います。今、自分が日本に来ていることは、まるで夢の様です。私はカトマンズのドウーカトール地区のスラム街で、貧しい女性達の生活向上の為に働いています。ネパールでもできる新しい仕事を学び、その技術を是非恵まれない多くの女性達に伝えたいと思います。日本での研修が彼女達の自立に少しでも役立つ様に、一生懸命に勉強するつもりです。また、女性の社会活動にも興味をもっていますので、多くの事を学ばせていただきたいと思っています。
- ⑨ 日本の街はとても綺麗なのに驚きました。日本は機械が何でもしてくれるのに、人々はとても忙しそうにしています。まるで人々も機械の様です。



### ① Mr. SHAMBA MEHAR KAYASTHA

サンバ メール カヤスタ

- ② サンバさん
- ③ ネパール
- ④ 32才(1952年4月13日生)
- ⑤ 結核予防協会職員及び農業
- ⑥ 園芸
- ⑦ 指圧、臨床検査を中心とした地域医療
- ⑧ 日本で研修する機会を与えられ、大変幸せに思っています。研修を受け、帰国したら、村々を廻って恵まれない人々の為に働きたいと考えています。
- ⑨ 日本に来て、先ず教育がゆき届き、衛生的な事にびっくりした。道路、商店が大変清潔で、人々がよく働き、また親切なのに感心しました。機械文明が発達している事も驚きの一つです。日本食は、まだ残念ながら口に合いません。日本語も難しいですが、今勉強しています。



第2期研修生(2班)レネ・ブリッツさん(22才フィリピン)ウィルフレード・ラニブさん(23才フィリピン)、ビシュヌ・アディカリさん(29才ネパール)の3名は来年2月に来日予定です。

### 第2期PHD研修生予定表

	ラダ	スリジャナ	サンバ
1983	神戸YMCA	日本語	8/1~8/26
8	PHD協会	研修準備	
9	たんば農文塾	集団生活研修	8/29~9/11
10	姫路市 ホームステイ 手工芸、婦人活動	篠山町 ホームステイ 同左	篠山町 ホームステイ 県立尼崎病院東 洋医学研究所等
11	広島市 平和学習 庄原市 ホームステイ	11/2~4 11/4~6 " 農業者大学校 11/7~9	下関市 ホームステイ 10/25~11/2
12	庄原市 ホームステイ 篠山町 ホームステイ	姫路市 ホームステイ 三木市、農産加工 ホームステイ	兵庫県下 指圧、臨床検査技術 ホームステイ

### ① Ms. RADHA DEVI BANSTOLA

ラダー デビ バンストーラ

- ② ラダーさん
- ③ ネパール
- ④ 38才(1945年1月1日生)
- ⑤ 編物教師
- ⑥ 刺しゅう、編物、家庭菜園
- ⑦ 手工芸、婦人の社会活動
- ⑧ 私の住んでいるポカラという街の女性は、都会の女性と比べ学ぶ機会も与えられず、随分低い生活をしています。そういった女性たちに、一つの仕事が完全に身につくよう、お手伝いしたいと思っています。現在の希望は、編物、洋裁を中心に習い、竹細工とか養蚕関係もできたら勉強したいと思います。また、人生をいかに良い方向にもっていくかも、日本の女性から学びたいと思っています。
- ⑨ 日本の人々は、いつも走っていて、のんびりしたところが見られません。また、老人が一生懸命に働いている姿を見るのは驚きです。ネパールでは老人は尊敬され、ゆったりと暮らしています。然し、日本は清潔なためか、病人が少ない様ですね。また、仕事がきれいで早いのは本当に感心しています。



## 協会ニュース



### § PHD基金寄託の状況

皆様からの浄財につきまして、PHD-LETTER第7号につづき、ご報告します。毎週日曜日、神戸新聞紙上に寄託者のお名前を掲載していただいております。(なお、会員制発足により、PHD新入会員の基金は、別集計しましたので下記数字には含まれておりません。)

昭和58年5月1日~7月31日 一般寄付総計 3,476,026円

### § 理事会報告

PHD財団理事会が去る8月9日開かれました。PHD財団寄附行為の変更について審議がなされました。その結果、財団の名称及び目的等についての変更が議決され、9月1日付で兵庫県知事の認可を受けました。PHD財団はその名称を財団法人PHD協会と改められ、その事業内容に「アジア・南太平洋地域から保健、医療及び福祉等の向上のため活動する者を受け入れて行う技術研修」の項目が加えられました。

長期的展望にたったPHD運動を推進するため、PHD業務と事務局運営についての確認もなされました。

### § PHDセミナー開催のお知らせ

PHD協会では、開発途上国の現状をより広くご理解頂き、併せてPHD運動をお知り頂くため、月に一回、県下各地でPHDセミナーを開催する事になりました。第一回セミナーは、8月27日(土)神戸三宮の青少年会館において「ネパールからの提言」と題し、海外青年協力隊OBの鳴瀬弥嗣氏の現地報告がありました。ネパールよりの研修生3名も交え、「共に生きる」社会への途を話しあい、参加の高校生、一般の方々と共に大変有意義なひとときをもつ事ができました。今後とも、海外青年協力隊OBの方々のご協力をいただき、皆様と共に語りあえるセミナーを開いてゆきたいと思っております。

※尚、開催についてのご案内は、神戸新聞の催し欄・並びに情報誌(関西エル・マガジンプラスQ)に掲載いたしますが、詳細をお知りになりたい方はPHD協会事務局までお問合せください。

### § 第3回PHD現地研修旅行(1983年)のご案内

今年も12月にアジアの草の根生活を体験する第3回PHD研修旅行を行ないます。ネパールの農村の人々と生活を共にし、草の根の現場でPHDを学んでみませんか。

記

1. 渡航先: ネパール  
現地の結核予防協会・家族計画協会のフィールド・ワーカーと共に、ポカラ・バクタプール・マハンカラ等の農村を訪れます。
2. 期間: 昭和58年12月9日~20日(12日間)
3. 費用: ¥180,000-  
(含 往復渡航費・ビザ代)
4. 募集人員: 20名
5. 〆切日: 昭和58年11月10日  
参加ご希望の方は、電話又はハガキで申込書を、PHD協会事務局までご請求ください。

### § PHD農場だより

化学肥料、農薬を使わない有機農法でPHD農場をはじめてから、6か月がたちました。有志の方々が定期的に農場に来られ、種をまき、育て、そして収穫した作物の味は格別です。土に直接にふれることは、私たち人間に多くのことを教えてくれます。最近、自然浴、森林浴のことなどよく耳にしますが、PHD農場もこれからです。皆さんと共に、作物栽培を通じてPHDのふれあいの場がひろがることを願っております。ぜひ一度、お越しください。〒561 豊中市上津島2の16の24 南田慶治

## 草の根交差点(その二)



### 〈漬物と塩〉

ネパールの漬物は、ほとんどが油漬で、材料は日本でもおなじみの大根、胡瓜、にが瓜等。変ったところで、青トマト、レモン等があるそうです。これらを漬した調味料や香辛料(マサラ、ペサラ、山椒の実、肉桂等)と菜種油を瓶の中で混ぜ、日なたに数日おいて出来上り。これは手軽にできる上、とてもおいしいそうです。前回の乾燥野菜同様、ここでも天日の利用が見受けられます。奥様に伺ったところ、私たち日本人が好みとする塩漬等は、まずお目にかかれぬとか。でも第一期研修生の皆さんは、口にあったのか、塩漬にも、よく箸を付けられた様です。

ちなみに、塩について  
現地では、海水の精製塩が、インド経由で入っては来ますが、値段が高い上、山地の住民にまで届きにくいので、人々は入手しやすい岩塩を使うのが一般的な様です。

岩村先生ご夫妻は、昭和37年の赴任当初、この岩塩を水に溶かし、濾過し、蒸発(乾燥)させる等、かなりの手間をかけて精製塩を作られていたようですが、やがて、気候が雨期になって乾燥しにくくなり、ついには岩塩そのものを使われる様になったそうです。しかもこの岩塩、食べ慣れると色々な無機質を含むせいか、とても乙な味とか。ただ海水塩と異り、ヨード分を含んでいないのが欠点の様です。現地の人が「精製塩は高くてもいい。岩塩の方が安くてもうまい!」  
そういえば、私たちの使う精製塩は、最近、あまりに純度が高すぎて、ミネラル分やがりがりをつぶる含んだ、かつての粗製塩の味とは、かけ離れてしまった様です。この辺で、食塩に限らず全ての面で、自然の妙なるものを取り戻したいですね。

### —おたより紹介—

前略、初めてお便りを差し上げます。先生がネパールの結核の患者さん達を救う為に、一生を捧げていらっしゃることは、十年以上も前、僕がまだ小学校の低学年だった頃、本を読んで覚えておりました。そして僕は大学受験に失敗し、浪人生活を送っておりましたところ、この2月にNHKのラジオで、偶然先生のお話をうかがうことができ、感激致しました。お陰様でこの春、東京理科大学に入学できました。考えてみれば、浪人の苦しみなど、栄養失調で苦しんで居られる方々の苦しみとは全く比較にならない、贅沢なものでした。でも浪人したお陰で、苦しんでいる方を助けて差し上げるのは、当然のことだと思ふようになりました。最後になりましたが、ここにお送りするお金は、先生がラジオでおっしゃった様に、お昼に飲むジュース代100円を貯めて、できたものです。僅かな金額ではありますが、毎月送らせて頂きますので、僕達の仲間の皆さんのお手許でお使い下さい。また、先生もお元気で益々御活躍なさいますことを、お祈り申し上げます。乱筆にて失礼いたします。草々  
横浜市金沢区 鳥越幹二郎

### § あなたの10パーセントをお願いします。

あなたの語学能力、技術をPHDにお役立てくださいます。PHD協会では、PHDレターの英文化を計画しています。英語の好きな方、ぜひPHD協会事務局までご連絡下さい。ご自宅ですみますから、事務局の近くにお住まいでない方も、よろしくお願い致します。

- 〈内容〉
- ・PHDレターの翻訳(日本語→英語)
  - ・英文資料の翻訳(英語→日本語)
  - ・英文タイプ・ライティング
  - ・簡単な事務処理

### § 第二期研修生へのご協力お願い

女性研修生に手工芸(手芸・編物・パンワラワー・竹細工・皮細工など)を教える方、また、男性研修生の医療施設(特に指圧など)の見学をお世話いただく方がおられましたら、PHD協会までご連絡下さい。